

『心の問題』さて、おはようございます。第二礼拝へようこそ。日曜日の朝は、二つの礼拝があります。第一礼拝は、毎週の聖書預言アップデートで、第二礼拝は、聖書の御言葉の1節毎の学びです。今日は、テモテへの手紙第一 6章です。御心であれば、1節から10節まで学びます。オンラインでご参加の方はその箇所をお開き下さい。ここで、あらためてご案内ですが、我々の新しいウェブサイト、”jdfarag.org” が間もなく立ち上がります。この動画の下の説明欄の箇所に、そのリンクがあります。まだ登録されていない方は、是非ご登録下さい。そうすれば、通知が届き始めます。さて、御言葉に入りましょう。テモテへの手紙第一、第6章、1節からです。会堂におられる方で、可能な方はご起立ください。私が読みますので、付いてきて下さい。無理な方は、座ったままで結構です。今朝のこの御言葉は非常に興味深く、実際よく知られている聖書箇所です。それでは、始めましょう。

テモテへの手紙第一 第6章

1 奴隷としてくびきの下にある人はみな、自分の主人をあらゆる面で尊敬に値する人と 思わなければなりません。神の御名と教えが 悪く言われないようにするためです。

2 信者である主人を持つ人は、主人が兄弟だからといって軽んじることなく、むしろ、ますますよく仕えなさい。その良い行いから益を受けるのは信者であり、愛されている人なのであります。あなたはこれらのことを教え、また勧めなさい。

3 違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと、敬虔にかなう教えに同意しない者がいるなら、その人は高慢になっていて、

4 何一つ理解しておらず、議論やことばの争いをする病気に かかっているのです。嫉妬、争い、悪意のある話、邪悪な疑惑をもたらす言葉について、そこから、ねたみ、争い、ののしり、邪推、絶え間ない言い争いが生じます。

5 これらは、知性が腐って真理を失い、敬虔を利得の手段と考える者たちの間に 生じるのです。

6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそが、大きな利益を得る道です。

そして、その理由はこれ、7節です。

7 私たちは、何もこの世に持って来なかったし、また、何かを持って出ることもできません。

8 衣食があれば、それで満足すべきです。

9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑と畏と、また人を滅びと破滅に沈める、愚かで有害な多くの欲望に陥ります。

10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは金銭を追い求めたために、信仰から迷い出て、多くの苦痛で自分を刺し貫きました。

大丈夫ですか。では、お祈りしましょうか？ 私たちの理解に神の祝福を祈ります。

天の御父よ、感謝します。あなたの御言葉に感謝します今日私たちの目の前にある 御言葉のこの部分に感謝します。主よ、私たちは聖霊に私たちの注意を引きつけ、それを保ち、私たちの心がさまよわないようにして いただかないといけません。私たちはよくそうなりがちですから。心がさまよってしまうと、私たちはあなたが 私たちのために用意しておられるもの、示そうとしておられること、御言葉を通して 私たちの人生に語ろうとしておられるものを見逃してしまいます。そうなりたくはありません。主よ、私たちに集中力を与えてください。私たちはあなたにひたすら 注意を向けたいのです。私たちが集中して、今日、あなたが御言葉の 中で用意して下さっているものを 吸収することが出来ますように。主よ、感謝します。イエス様の御名において、アーメン、アーメン。ご着席下さい、ありがとうございました。今日の学びのタイトルは「心の問題」としました。その理由は使徒パウロが、この章で、問題の核心に迫っているからです。パウロが若き牧師テモテに宛てた、一通目の手紙の最終章です。今読んだように、そしてこれから見ていくように、パウロはテモテに、職業、つまり 仕事について、所有物、そしてお

金について 指導しています。どうか、知っておいて下さい。 ご存知ないなら、知っていただく 必要があります。少しでも続けて来られている方は、 ご存知ですね。私たちがお金の話をするのは、聖書の中で、御言葉がお金の話を扱っている時だけです。そして、今日の御言葉の箇所は、 お金について語っています。これは、聖書を節ごとに講解する形で 教えることの利点の一つである と言えるかもしれません。いわば、いいとこ取りだと責められることは 決してありません。聖書の中を捜して、イラっとさせるものを選んで 什一献金や捧げ物について、10週間シリーズをします。私たちはここでは 献金の時間も設けていません。この教会を始めた日から一度も したことがありません。それをするのは全く問題ありません。私はただ、この教会を始めた時、 献金の時間は設けないと決めたのです。その理由の一つは、お金のことになると、 ひどい悪用が行なわれてきたからです。これは、献金についての説教ではありません。まあ、ちょっと盛り込んではいませんが。たぶんここに居らっしゃるか、オンラインで 見ているどなたかのために。いずれにしても、あなたはこれを聞く 必要があるのかもしれません。神は常に養って下さいます。そして、私たちはいつも... 実は私たちは初めは... これはちょっと面白いです。神の慈しみ深さと、忠実さを 証しするものです。私たちは初めは、建物を借りていたセブンスデー・アドベンティスト教会で、折りたたみ テーブルを使っていました。あの教会を12年間借りていました。私たちは毎週、 折りたたみテーブルを設置して、その上にホームセンターで買った 真鍮製の郵便受けが置いてありました。こういう小さなもので、それが私たちの献金箱でした。それがテーブルの上に置かれていて、 とても小さい箱で、人々は主の導きのままに、 喜んで捧げていました。捧げ物が増えてきて、小さな箱に入りきれなくなったとき、教会員の一人が、特注の献金箱を作ってくれて、私たちにはその特注の「アガペー・ボックス」がありました。そう呼んだんです。大きかったし、特注品で、本物の木でできていて、最高でした。それがテーブルの上に置いてありました。そして、神が私たちにこの地所を 与えてくださり、この建物のリフォームもさせて下さった時、私たちはただ、後ろの壁に箱を2つ置きました。私たちは絶対に お金の問題にたくありません。その反対に、私たちはまた、その正反対にも極端に 走りたくありません。どういうことか説明させてください。お金に関しては、人々から、捧げることに伴う 祝福を奪うべきではありません。

受けるよりも与えるほうが幸いなのです。 (使徒 20:35 参照)

これは今日の教えの導入であり、また、私たちがお金の話をすることの 警告でもあります。必ずしも 献金についてではありませんが。それに、もうその話はしましたから、 これ以上それについて話す必要はありません。使徒パウロが今日テモテに書いていることは、非常に具体的に、生計手段、仕事、私たちが生活のためにする事、私たちがためた所有物、それからもちろん、 お金についてです。この三つの事についてお話しします。実際、以下は三つの・・・意図的ではないのですが、私は三つ見つけました。皆さんはもっと見つけるのかもしれませんが。私はそれらを、前提条件と呼びます。穏やかで、満足し、喜びに満ちた心を持つための前提条件。一つ目は、1節と2節にあります。それは、「しもべの心」です。ここでパウロは、今の時代で言えば、 従業員の雇用主に対する関係について 扱っています。特に、雇用主が信者である場合。これは興味深いですね。私は、聖霊が具体的にこの事について書くよう パウロを感化していることが 興味深いと思います。エペソの教会で、何が起こっていたのかを 示していると思います。その当時、雇用主につけこんで、失礼な態度をとる人たちがいたようです。雇用主が信者であった場合は特に。こんな感じで。ああ、彼はキリストの兄弟だ。だから、いいんだ。いえ、ダメです。雇用主がクリスチャンであるなら、なおさら、職場で良い証し人になるべきです。ここでパウロが話しているのは、そういうことです。事実、パウロは、彼らがしていた事は、 実際は妨げとなると言っています。それは福音と、神の御言葉と神の御名に 非難をもたらしていました。なぜなら、これらのキリスト教徒は、... こんな下品な言い方で申し訳ありませんが、彼らは、キリストの広告としては ひどいものでした。そんな言い方はしたくないんですが、考えてみてください。私たちはキリストの広告塔だということを 知っていますか？ なぜなら世は、私たちと、私たちの生き方を見ているからです。

使徒パウロが言うように、彼らは手紙を読んでいるのです。私たちは、生きた手紙です。彼らは、クリスチャン生活についての 私たちという手紙を読んでいます。そして、彼らは二つの質問をしています。二つの質問が何であるか、分かりますか？ 私は、これについてよく話します。最初の質問は、それは本物ですか？ あなたは本物なのか？ あなたは正真正銘のものか？ 第二の質問は、それは効き目があるのか？ そして実は、彼らはそれが本物であることを 望んでいるのです。そして、それに効き目があって欲しいんです。なぜなら、それがあなたの人生において 本物であり、あなたが正真正銘のもので、効き目があるのなら、彼らには希望があるからです。パウロが書いた事について考えると…すみません、パウロではなく、ペテロです。大変な一週間だったんです。お気づきでなかったら…でも、ペテロはこう言ったんです。私たちは、誰に対しても、私たちの持っている希望の答えを すべての人に与える準備がなければなりません。私たちが持っているあの希望についての答えを 全ての人に与える時があるとすれば、それは 今であると皆さんも同意されませんか？ 世界で起こっている事をすべて考慮すると？ 聖書預言アップデートでは、世界中から届く証しを報告しています。今日は、遠く、ハワイ島のカイルア・コナからの 証がありました。とても素晴らしいです。彼らはユタ州に姉妹がいらっしやいます。そのユタ州にいる姉妹が、 ハワイ島の家族に聖書預言アップデートの情報を送りました。ねえ、彼はハワイにいるわよ！ それで彼らは、預言アップデートを見始めました。ああ、すごい！父は… 考えられないことですが、私の父も見て、聞いているんです。今、神は人々の注目を得ていると 私は教えて言わせてもらいます。そう思いませんか？ 今、世界で起こっている事を考えると？ 何度も何度も、私たちには 人々からの声が届きます。次のような主旨のコメントが投稿され、メールが送られてきます。「この事が始まって以来、色んな人から電話がかかってくる。」それは良かった！ キリストのもとに来た人たちや、迷い出し、はぐれ、後戻りしていたけれど、キリストのもとに戻ってきた人たちがいるんです。この事がなかったら、決してそうはしなかった人たちです。こういうことを言うと、誤解される危険性があるかもしれないのは承知しています。前にも言いましたが、もう一度言わせてもらいます。皆さんが、うんざりしなければいいのですが、私は COVID-19 を、神に感謝しています。ホントです。そうでしょう？ と言うのも、キリストの福音が届けられた人たち失われていたけれど、このために 今、救われた人たち。本当ですよ！主をほめたたえます！ 私たちは広告塔です。私たちは良い広告ですか？ それとも、悪い広告ですか？ 人々が私のクリスチャン生活という 手紙を読むとき、彼らはそこに何を読むでしょうか？ 私は本物ですか？それとも、他の人々と同じですか？あなたが教会について話したり、誰かを教会に招待した時に、一番多いのはどんな反応ですか？「教会は偽善者だらけだ！」彼らは間違ってます。私ならこう言います。そうなんです。もう一人偽善者が欲しい ところなんです。どうぞ、来てください。それじゃあ、あんまりうまく行かないのは わかっています。今は言わないでくださいね。しかし、それは本当です。言われるように、教会は聖人の ショールームではありません。それは罪人と偽善者のための病院です。しかし、神は… でしょう？ でも、私たちは見られています。特に職場では。私たちは他の人たちと同じように、雇用主を利用するのですか？ 私たちは定められた仕事をするだけで、それ以上余計な働きはしません。だって、その分はお金をもらえないんだから。そうですか？ ああ、それはあなたの証しに役立ちますね。私が雇用主で、クリスチャンの従業員と、 そうでない従業員がいるとします。違いは..？ それで、あなたは私を教会に招待したいって？ コロサイ人への手紙3章22節~25節「奴隷たちよ。…」なぜなら、その当時、ローマ帝国では、割合は忘れてしまいましたが、当時の大半の人々が奴隷でした。だから、「奴隷」という言葉を「従業員」に置き換えます。「すべてのことについて 地上の雇用主に従いなさい。人のご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、」上司が見ていると、「あー、見て。私、一生懸命働いてますよ。」上司がいなくなると、アレはどういう表現でしたっけ？ ”猫がいないとネズミがあばれる”（鬼の居ぬ間に洗濯。）それがパウロの言っていることです。彼らが見ている時だけに そうするのはやめなさい。誰も見ていない時、 あなたは、どんな人ですか？あなたの雇用主が見ていない時、 あなたはどんな人ですか？

「主を恐れつつ、真心から従いなさい。」— 22 節—

「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい」 — 23 節—

注意深く聞いてください。これが鍵です。あなたは雇い主のために働いているのではありません。あなたは主のために働いているのです。主に対して。

「あなたがたは、主から報いとして御国を受け継ぐことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。」 [24 節]

あなたは主に仕えるように働いているのです。人間にはありません。それが全てを変えるはずです。見方がすっかり変わるはずです。あなたが職場、職業、雇用者をどのように見るか。キリストを知って救われた雇用主が何人いるでしょうか？ 忠実な従業員が、主に対してするように働いているが故に。それは際立っていました。それは、目立つたらありませんある実際にあった話を思い出します。何年も前に聞いたものです。クリスチャンの従業員が、要求されている以上に働いて、ものすごく一生懸命働いていて、クリスチャンでない同僚たちが腹を立てたんです。「お前は、俺たちを悪者になっている。」「止めろ！俺たちはそんなに働かないから。」彼は言いました。「いや、私は止めるつもりはない。」「私は主に対してこうしているのだ。」そして案の定、彼は雇い主の目にとまりました。で、彼のその後？ 皆さん、その本、その手紙の、次の章が書けますよ。出世です。彼は昇進し、成功しました。神は彼に報いを与え、それを祝福し、それを高く評価しました。ヨセフについて考えてください。本当にあらゆる意味で、彼は奴隷でした。彼の身に起こったすべての事、彼を襲った事に対し、彼は、どう対処したのでしょうか？ 主に対するようにしました。そしてどうなったか？ 彼はどん底から、頂点にまで昇進しました。彼はポティファルという名のボスの下で働いていました。この人はとても感心しました。それだけでなく、ヨセフは当時知られていた世界で、パロに次ぎ、最も権威ある男になります。パロは古代エジプトでは、神として見られていました。なぜでしょうか。彼がやった事のためです。人間のためにしたのではありませんでした。人間に対してしたのではありませんでした。それは主のため、主に対してでした。間違いなく、クリスチャンは、どのようなビジネスのどんな会社でも、最高の従業員であるべきです。クリスチャンは、はるかに際立つべきです。あなたが、誰かの顔をつぶしているなら、どうしたらいいか分かりますか？... ああ... これは気をつけながら言わないと。ビリー・サンデーの話ですが、彼は、1800年代から1900年代初頭の伝道者でした。ビリー・グラハム以前です。ビリー・サンデー。ビリーという名に何かあるんでしょうね。とにかく、彼は有名な伝道師で、大規模な伝道活動をしていました。ある伝道集会の後に、一人の女性が彼の所に来たそうです。そして彼女は彼に言いました。「先生、あなたは私の神経を逆なでするわ。」もし誰かが、私にそんな事を言ったら、私は愛ある神の牧師ですから、「下がれ、サタン！」と言うかもしれません。いいえ、言いませんよ。。たぶん。ビリーは彼女に言います。「もし私があなたの神経を逆なでするなら、あなたは向きを変えないと。」猫の毛を逆なでしたら、どうなりますか？ 猫の向きを変えないといけません。正しく撫でるために。それが、あなたが顔を潰している同僚に言うべきことです。あなたが、一生懸命に、誠心誠意、主に対するように働くときに。いいえ、私はあなたのレベルに下げて同じようにはしませんよ。あなたはレベルを上げて、私と同じようにして働かないと。主に対するように。二つ目は、3 節から 8 節にあります。それは、「満足する心」です。パウロがここで、満足することに関して テモテに書いている事の重要性を強調し切れるかどうか、分かりません。これは、興味深いです。皆さんに気づいて頂きたいのですが、パウロがリストに挙げているのは、うぬぼれ、口論、[これはかなりのリストです]、ねたみ、争い、悪意のある噂話、邪推、絶え間ない摩擦です。満足について語る上で。それでどうということ？ まあ、私が考えていることは、上記のリストのすべてのものは、不満、不敬虔のレシピに必要な成分であり、もうすぐ分かるように、あらゆる種類の悪に必要な成分です。私と一緒に考えてみてください。私が満足しているなら、私はうぬぼれないでしょう。私が満足しているなら、私は言い争いはしないでしょう。そして私が満足しているなら、間違いなく私は羨ましがらないでしょう。羨望は満足の敵です。私たちを不満にさせるのは強欲ではないのですか？ なんとということ。広告につい

て言うと、広告業界全体がそれに基づいています。それを認識していますか？ 何年も前、私は自動車関係の仕事をしていました。私はまだ救われていますので、石打ちにして殺さないでください。毎回新車の入荷があるたびに、工場から請求書を受け取ります。ディーラーが支払う代金です。そして、請求書には例外なく 広告費という項目があります。全体的に見るために言うておきますが、これは90年代のことですよ。車一台当たりの平均広告費用は、500ドル！ ええッ！？ 車一台につき？ 大金です。結果的にかなりの金額になります。それが何を意味するか分かりますか？ あなたや、私が買うすべての車、まあ、私は新車を買わないので、私は違いますが、はあー。自分でこの話に入っちゃったので、そこから抜け出すのを主が助けてくださるか、見てみましょう。あなたが新車をお持ちなら、神の祝福を！ 主をほめたたえます。いまいちですか？ じゃあ、これはどうでしょう。問題は、あなたが何を手にしているかではなく、あなた何の手中にあるかです。問題は、車庫の中にあるものではなく、あなたの心の中にあるものです。これでいいですか？ 広告の話に戻ると、90年代でも1台あたり500ドル！ つまり、製造されるすべての新車には、あなたがテレビで見る広告に、500ドルの費用がかかっています。効果があるに違いありません。なぜなら、ディーラーが先ずそれを支払って、次にあなたがそれを支払うからです。車1台あたり500ドル。ああ、効果があるし、彼らにとってはそれだけの価値があるんです。なぜだか分かりますか？ 座ってテレビを視ていると、このCMが入ります。何だか知らないけど、彼らを選ぶのはいつも..彼らは実在するんですかね？ この美しい女性と、ハンサムな男。彼らはあなたが見たこともないような、満面の笑顔です。彼らはとても幸せです。なぜ彼らが幸せなのか知っていますか？ なぜなら、彼らは真新しい車を買ったからです。そして、あなたはこう思います。「私はあんなに幸せじゃない。」「私があんなに幸せじゃないのは、その新車を持ってないからだ。」どうしたらいいか分かったぞ。あの新しい車を買に行こう！ そうすれば、彼らのように幸せになれる。それほど世間知らずではありませんよね？ 何が起るかというと、全ては不満を基盤にしています。私はもう一步踏み込みます。皆さんの中には、あの表情で私を見ている人がいますので。これらの広告に縫い付けられた不満は、強烈なので、あなたは自分の古い車を見て、それを嫌悪するのです。「お前は私を幸せにしない。」「お前を見てみろよ。」「お前は古い。俺が幸せじゃないのも当然だ。」「お前を取り替える。」ふざけてますけど、本当ですよ。私の仕事は、実際には、代行で買う サービスを提供することでした。私は自動車協会、AAAを通して 仕事をしていました。会員は、たいてい、夫が亡くなっている未亡人で、彼女たちはディーラーショップに来ると、ほふられる子羊のようでした。なぜなら、いつもその夫たちが 彼女たちのために車を買っていたからです。ですから、それは、実際には商売であり、同時に未亡人へのミニストリーだったんです。だから私は基本的に一律料金でサービスを 提供して、交渉は全部私がやりました。未亡人が、つけ込まれないように。なので、私が教えたのは...ここまで話すつもりは全くなかったのですが、話す必要があるのかもしれませんが。私は地元の自動車クラブでセミナーを開き、「車を買う時の悪い見本」と題しました。私は一度、尋ねられました。「このサービスで、誰かにお金をどれだけ 節約させることが出来ましたか？」私は、一度、だれかに二万五千ドルを節約させたことがあると言いました。どうやってやったの？ 私と話し終えた時には、彼らは新しい車を買わないことにしたんです。私は彼らに2万5千ドルを節約させました。それは、当時の新車の平均価格でした。私は、ふざけているわけではありません。私が人々に何と言うかという、「あなたはあの宣伝を見たんでしょう。」「私も同じ宣伝を見ましたよ。」「ああ、教えてあげないと。私は...」「私は車販売のプロです。 その私がそれを見て、…」ふうん〜。分割払いでいくらだった？ 私は、引き寄せられ、吸い取られそうでした。とても魅力的で、うっとりします。音楽も流れてて、非常に意図的です。あなたは夢うつつとなり、「私は新しい車を買おう。」サブリミナルである必要もありません。だから私は人々に言います。「こうするんですよ。」「すべては不満です。」「あなたも、25,000ドルを節約したくないですか?」「それは満足といいます。」「ええ、でも、私の車を見てください。」「ああ、いいね。こうしたらいいんです。まず、それを洗いに行ってください。それを見てください。洗いに行って！新しいフロアマットを買いなさい。臭いから。道理で！付属品を買うのもいいかも。どうしても

新車の香りが欲しいなら、おー、それにはやられますね。あの新車の香りが何かご存知ですよ？ プラスチックです！ プラスチックを買いに行って その匂いを嗅げばいい！ダッシュボードの下に置いておけばいい。羨望。あなたは強欲なんです。それは満足の大敵です。それが争いや、ののしりに繋がるのは 驚くべき事でしょうか？ あなたが誰かに対して見下して話すとき、 事実上あなたは自分を高く上げているんです。邪推、絶え間ない言い争い、これは興味深いです。満足しているクリスチャンを見せてくれたら、 平安なクリスチャンをお見せしましょう。それは、これらのどれでも 知られていない人生です。もう一度、このリストを見てみましょう。 高慢、ことばの争い、ねたみ、争い、ののしり、邪推、絶え間ない言い争い？ そんなものやめなさい！ 頭に穴を開けるのと同じくらい 全く必要ない。私には必要ありません。 そんなの欲しくないんです。ピリピ人への手紙第4章 10-13節 使徒パウロは10節で言います。

ピリピ人への手紙第4章

10私を案じてくれるあなたがたの心が、 今ついによみがえってきたことを、 私は主にあって大いに喜んでいますが、 あなたがたは案じてくれていたのですが、 それを示す機会がなかったのです。」

11乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても 満足することを学びました。[キーワード：学んだ]

12私は、貧しくあることも知っており、富むことも知っています。満ち足りることにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を 心得ています。

そして最も有名な、よく知られている聖句。

13私を強くしてくださる方によって、 私はどんなことでもできるのです。

言い換えれば、「私は満足することを学びました。」「それは簡単ではありませんでした。時間がかかりました。」しかし、パウロがそれを学んだと言うことは、彼が教えを受けることが出来たことを前提としています。彼がそれを学ぶだろう、と。よく言われるように、私たちの中には、決して学ばない人もいます。「あなたは決して学ばない！（また同じことをやってる）」分かっています。自分でもどうして分かりません。鈍くて、強情で、頑固で。ご自分で分かりますね。頭が固くて…学習しない。これは私たち一人ひとりが 学ぶと良いことです。「満足することの秘訣」次の最後のものに、今日の残りの時間を使いたいと思います。9節と10節です。その理由は、すぐに分かると思います。それは「分断されていない心」10節は、聖書の中で、一番とは言わなくとも、最も間違っただけで引用される聖句の一つです。それがこのように引用されるのを しばしば、耳にします。「お金は、すべての悪の根源だ！」「そうだ！お金は悪だ！」いいえ、そうとは言っていない。お金は中立です。それには道徳意識がありません。あなたはお金を使って、何か不道徳な事をする事も出来ますし、お金を使って、何か道徳的な事をする事も出来ます。それは、お金自体の問題ではなく、あなたがお金で何をするかです。いいですね。では、お金がすべての悪の根源でないなら、パウロが言うように、「あらゆる悪の根源」とは何でしょうか？ それは、金銭を愛することです。あなたはそれを愛している。ところで、お金はあなたを愛し返してはくれません。しかし、あなたはそれを愛している。それが問題です。そして、重要なことはこれです。これが本当に深いのは分かっていますが、9節は10節の前に来ます。だから、本当に深いと言ったでしょ。9節は、金銭を愛することに関連して、その結論の背後にある理由を示しています。パウロが、それは誘惑から始まるよ と言っていることに注目してください。そして、それは「畏」です。金持ちになりたいという畏です。すぐそこに、あなたの問題があります。なぜなら、それは前提として、その中核に この信念、この概念があるからです。「もし私がそれを持っていれば…」「そうしたら、私は満足し、幸せになれる。」空欄を埋めるのはあなたです。満足できるのは、私がアレや、コレを手に入れるからではありません。私の満足は、より多くを得ることを前提としていません。実際、私はその反対が真実であると主張します。あなたは持てば持つほど、より多くの不満を持つことになります。そして、箴言(*正確には伝道者の書 5:10)には、「金銭を愛する者は、金銭に満足しない。」とあります。「ああ、もうちょっと。もうちょっとだけ…」それは魅惑的です。そして、夢中にさせま

す。金銭を愛するがゆえに、金銭を追い求めるそれは誘惑であり、罠です。お金持ちになりたいと思う事は。そして、どうなるかと言うと、それは、人を愚かな欲望に陥らせ、滅ぼし、破滅させます。なぜでしょうか。これは、「なぜか？」と尋ねるのが、非常に重要な場面の一つだと思います。「主よ、…」聖書を読んでいると、しばしば「主よ、どうしてこの部分は聖書の中に含まれるほど大事なのですか？」と聞くべき時があります。それは理由があって、含まれています。聖書はすべて神の靈感によるもので、理由があって書かれているのです。時には教えのためであり、時には戒めのためです。私はその部分は好きではありません。私たちは、御言葉を探すことについて話しますが、あなたが御言葉を探れば、御言葉もあなたを探ります。そんな風に思いませんか？あなたが御言葉に入り込むと、御言葉があなたに入り込みます。私たちは聖書を調べ、学びます。しかし、真実のところは、聖書が私たちを調べているのです。そして神は、御言葉を通して、私たちの心のその部分を明確に示されます。神は私たちの心を見られるからです。神は私たちの心の中をご存知です。私たちは違います。私たちは外見だけを見ます。神は私たちの心の中にあるものをご存知です。そして、神は私たちが「分断された心」があると、それをご存知です。分断された心とは、「二心」と同じような意味です。「二心であること」このあとすぐに、さらに説明します。しかし、これが問題なんです。なぜなら…こちら側にお金があり、裕福になる事があり、そして、反対側に主がいます。それは、その二つの間での絶え間ない葛藤です。基本的にこう語っている箴言が、私は大好きです。これは言い換えですが、あなたが追い求めるものが、あなたを追い立てる。ところで、主のみこころならば、来週、使徒パウロは続けて書きます。彼はテモテに手紙を書いて言います。これらのことを避け、代わりにこれを追い求めなさいと。私はそれが大好きです。しばしば神の御言葉には、神がこう言われる箇所があります。「これを避け、代わりにこれを追い求めなさい。なぜなら、何が起こるかという、あなたが追い求めるものが、あなたを追い立てるからです。あなたはこの追求、金持ちになるための飽くことのない追及と探求を始めます。まもなくすると、あなたが追い求めるものが、あなたを追い立てるのです。そして、そこに罠が入ってきます。マタイ6章です。19節から。これは私にとって…もちろん、それは有名な「山上の説教 (Sermon on the Mount)」です。ある人がユーモアを込めて、「金額についての説教 (Sermon on the Amount)」と呼んだことがあります。それは地上のマモン、お金、所有物の問題を扱っているからです。ある意味面白いのは、実は、6章の終わりまでずっと、イエスは実際に、心配に対する治療法を提供しているんです。あなたは心配性ですか？私は心配依存症から回復してきていると、正直に告白してきました。ホントです。ちなみに、私は心配の博士号を持っています。言っておきますが、私は本当に上手くなりました。神は私の人生に、深く働いてくださっています。私は神の恵みにとても感謝しています。彼は私を心配や不安から解放してくださいました。しかし、私は誰にも負けにくいくらい、心配することが出来ました。私はとても上手くなったので、自分の人生で心配する事がなくなったら、私はあなたのために心配できることがあるか、あなたに尋ねていたでしょう。とにかく、私はすごく上手かった。1995年のことです。郷愁に浸ってますから…私がビジネスの世界にいたとき、私は年末の会計をしていました。そして…私はデボーションで、1995年に私が心配した95個の事をリストにしました。「おお、牧師さん。あなたは本当に心配していたんですね。」ええ、95件のこと。私はどうやってその95のリストを作ったのか？私の祈りのリストからです。ああ、なんということでしょう。眠れない夜をどれほど過ごしたのか。私はただ、自分の祈りのリストと祈りの日記を振り返って見ていて、そして、「私はこんな事を心配していたのか？」はい。「ほっ、そんなこと起こらなかったよ！」分かっています。あなたはもう少しで怒りそうになります。「私はこの事について心配して、あれほど時間を無駄にしたのに、それは決して起こらなかった?!」はい。あなたが心配していることの約90%は、決して起こらないことを知っていますか？皆さんの中の心配性の方は、「ちょっと待って。残りの10%は？」「それは起こるんだろう？分かっていたよ…！」(泣) 待ってください。あなたが心配し、実際に起こる残りの10%については、神は、あなたが必要な時に十分な恵みを与えられます。そして、それはあなたが想像して、心の中で考えたほど、悪いものではありません。面白くないですか？心配のこととなる

と、あなたはこの考えられないような、恐ろしいシナリオを描くのです。そして、心配とはこういうものです。それは、次の2つの言葉を使います。「もしも、……だったら？」「……だったら？」あなたはそれらの空欄を埋め始めます。そして、悪魔はあなたを出来る限り 心配させようと、手ぐすね引いて待っています。将来のことまで。私たちが将来を心配するのは 事実ではありませんか？「将来はどうなるんだ？」「どうしよう」「もし…だったら？」「…だったら？」そして、サタンがすぐそばにいて…「分かるよ。どうするつもりなんだ？」「これは本当に酷いな…」 —「ああ…分かっているよ、これは本当に酷い！（泣）」それが終わるころには…？ あなたは何かを請け負っています。神がすでに世話をしようとしているものを。あなたはこのとてつもない、大規模なシナリオを作り上げました。あなたはこんな感じで…「これでもう終わりだ！」「もうおしまいだ！」「もう二度と立ち直れない！」「……（泣）」主は、「あなたは何をしているのか？」「なぜあなたは自分に そんなことをしているのか？」1分心配をすることは、1分無駄にすることです。ピリピ人への手紙でパウロはこう言っています。「何も心配するな。」（ピリピ 4:6 参照）私が間違っただけでなければ、それは二重否定です。それはもっとこんな感じです。たったの一つでも、何も心配してはいけません。そして、このマタイ 6章でイエスは、 私たちに心配に対する治療法を与えています「明日のことは心配してはいけません。」「神は、空を飛んでいる鳥でさえ、 養っているのならば…」あなたはあの鳥がミミズを詰め込むために 納屋を建てるのを見ますか？ 養うために？ あなたは鳥がそれについて 心配しているのを見たことがありますか？ ありません！そして、イエスは花を指し示しますガリラヤ湖の丘の中腹にいる イエスを思い描いてください。美しく、おそらくは春で、あらゆる花々が咲いています。彼は花を指差して、「その花を見てごらんささい。」あの花が紡いでいるのを見ますか？ ひどくビクついて？「ああ〜…」「私は何を着たらいいの〜？ 先週これを着たし…」「あなたは何を言っているのか？」「ソロモンでさえ、この小さな花の一つほどにも 豪華に着飾っていませんでした。」（マタイ 6:29 参照）ところで、要点は、「あなたはその花よりも、 ずっと価値があるのではありませんか？」「今日ここにある花は、 明日には無くなってしまふのだ。」「あの鳥はどうか？」「あなたはその鳥よりも、 ずっと価値があるのではないか？」「それなのに、なぜ あなたは心配しているのか？」「あなたは、あなたを大事にし、あなたを愛し、あなたを養って下さる天の父が いないかのように、心配している。」聞いてください。あなたにそれが必要であるなら、神はそれをあなたに与えられます。それは既定の事実です。もしあなたに必要ならば、神はそれを与えてくださいます。さて、問題は、それは、私たちが考える方法ではなく、そして、確実に、私たちが 考えるタイミングでもありません。なぜなら、真実を明かすならば、私たちは、自分の欲しいときに 欲しいものを欲しがります。しかし、神は私たちの時間に基づいては働かれません。それは神のタイミングによるものであり、神のタイミングは常に完璧です。神は決して遅れることはありません。ちなみに、決して早すぎることもありません。そして、もう一度真実を明かすならば、あなたにとっては、神が早すぎない方がいいのです。神のタイミングは常に完璧です。ここ 19節で、イエスはこう言っています。

「自分のために、地上に宝を蓄えるのはやめなさい。そこでは、虫やさびで傷物になり、盗人が壁に穴を開けて盗みます。」（マタイ 6:19）

それは JD 訳です。すみません。

「（しかし）自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは、虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。」（マタイ 6:20）

そして、彼はこう言います。

「あなたの宝のあるところ、そこにああなたの心もあるのです。」（マタイ 6:21）

イエスは逆には言いませんでした。

彼は、「あなたの心があるところに、あなたの宝がある。」とは言いませんでした。あなたの宝があるところに、あなたの心もある。あなたの心はどこにありますか？ ああ、今はちょっとそれは対立していて、ちょっと分裂して、分割しています。イエスは、今からその事について話します。

(22節) 「からだの明かりは目です。ですから、あなたがたの目が健やかなら 全身が明るくなりますが、」

目が悪ければ全身が暗くなります。ですから、もしあなたのうちにある光が闇なら、その闇はどれほどでしょうか。」 (23節)

「だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることとなります。あなたは神と富とに仕えることはできません。」 (24節)

彼が、「仕えるべきではない。」と言わなかったことに、注目してください。いいえ、「できない」のです。どちらか一方だけです。それは不可能なのです。あなたはある一方に仕えるか、もう一方に仕えるかのどちらかです。両方に仕えることはできません。次の点に注意してください。2つの宝、2つの目、そして2つの神。イエスが言っているのは、「両方を手にすることは出来ない。」ということです。どちらか一方です。盗人やさびで損なわれるかもしれない 地上に宝を持つか、または、何もそれに触れることのできない、 天に宝を持つかのどちらかですまた…、あなたには目があり、 あなたの目が良いか、 邪悪かのどちらかです。それは両方ではありません。どちらかです。もしくは…、あなたは神に仕えるのか、 またはお金に仕えるのかこれについて、よく聞いてください。お金に仕えている人は、お金と所有物が、人生の支配的感情になる時、 自分がお金に仕えているのを知ります。言い換えれば、それは 私が最もよく考えるもの、私が最も多くの時間を費やしているもの、それが私の神です。もし、私の人生の支配的感情、私の人生の探求が、 地上に宝を蓄えることであるなら…？ お金が私の神です。繰り返しますが、問題はあなたが何を所有しているかではなく、何があなたを所有しているか、です。何があなたを支配していますか？ 何があなたの心を占めていますか？ 何があなたを興奮させますか？ あなたが一番よく考えるのは何ですか？ あなたが最も時間を費やしているのは 何ですか？ それ、あなたの神なのです。それが何であれ、あなたは それに仕えているのです。空白はあなたが埋めてください。なので…答えは何でしょうか？ 6章33節で、イエスはこう言っています。

「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」 (マタイ 6:33)

イエスがあなたの心の王座である、 彼がいるべき場所にいるなら、しかし、私たちが彼を置き換え、彼の代わりに、別の神を据えるなら、それなら、繰り返しますが、 あなたはその書の次の章を書くことができます。面白いと思いませんか？ この危機がきっかけで、 これらのすべての神々…スポーツの神、ビジネスの神、お金の神…リストは続きますが、すべてが基本的に取り除かれました。ちょうど思い出しました… これで終わりにしますが、いいですか、神がこう仰る時そして、それは実に、 第一と第二の戒めですが、

「わたしの前に、ほかの神々が あってはならない。あなたは自分のために、 いかなる形をも造ってはならない。それらを拝んではならない。それらに仕えてはならない。」 (出エジプト記 20:3 - 5 参照)

神がこんな風に言っているとは、絶対に想像しないでください。「わたしが神だからだ！わたしがそう言うのだ！」 「汝、…するべからず！」こう言われているのは、適格なことです。「罪は禁じられているから、悪いのではなく、罪は悪いから、禁じられている。」ある人が、十戒/ten commandment を、優しい戒め/tender commandment と 表現したことを、考えてみてください。愛情深く、優しい天の父からの。神は基本的に私たちにこう仰います。神は言葉で表現できないほどに 私たちを愛しておられます。神は私たちをとて愛しておられ、 私たちにこう仰います。「他の神々があってはいけない。」「それらは全く神ではない。」「それらはあなたを愛していないし、 あなたの味方にもならない。」「なぜあなたは、それらにひれ伏して、 拝しているのか？」「それは神ではない。」「あなたはその神を世話しなければならぬ。」「わたしが神だ。わたしがあなたを世話する。」ニネベの人、ペリシテ人を覚えていませんか？ 彼らはこの半人半魚の神を 崇拝していました。ペリシテ人はそれをダゴンと呼びました。そして、とても面白い記述があります。ペリシテ人が契約の箱を奪いますそれは契約の箱です！ 神の栄光(シャカイナ・グローリー)の あった所です。ペリシテ人はそれを奪いました。(サムエル記第一 5

章参照) 彼らが契約の箱を取って、自分たちの 偽りの神の神殿にそれを置いたのは、大きな間違いでした。この半人半魚の神、ダゴン。そして、彼らが翌朝目を覚まして、神殿に行くと、彼らの神が、地にうつぶせになって、倒れているのです。契約の箱の前で。完ぺきですね。その腕や頭が、壊れていました。あなたの神の頭と腕が壊れるなんて、困ったものです。なので、彼らはそれを直して、立たせました。神を修理しなければならないとなると、本当に困ったものですね。彼らがもう一度がそうすると、案の定、翌朝、それは地にうつ伏せに倒れていました。ちくしょう！(ダッゴン・イット - doggone it) そこに由来しているのかは知りませんが。なので、彼らは契約の箱を 手放しました。ヨナ。私が彼を持ち出すのは、彼らは、同じ神を崇拝していたからです。考えてみたら、だからこそ神は ヨナにあんな事をされたのです。その話をご存じですね。文字通りにどうなったか。彼は神から逃げます。神は大きな魚に彼を飲み込ませ、そして…生々しい描写ですみませんが、実際に起こったことです。この大きな魚はビーチで、ヨナを吐き出すのです。ここもまた、「なぜ？」と尋ねねばならない 箇所の一つです。胃酸を浴びているこの男は、彼はおそらく白くなっていて、彼の髪はあの魚の胃酸によって、白く漂白されていたでしょう。これは文字通りに起こったのです。いいですか？ そこで、ビーチにいるこの男は、「裁きが来る」と言っていて、そして、なぜニネベの人達が悔い改めて 救われたのか、不思議に思いますか？ ところで、ヨナはこのことで、神に対して本当に怒っていました。彼は福音も説きませんでした。希望はありませんでした。それはこんな感じです。「40 日後に、お前たちは燃え尽きる！」神はお前たちに火を点ける！ 私は上からそれを見るつもりだ！待ちきれない！」すると、彼らは悔い改めます。ヨナはこんな感じです。「何？！何やってんだ？！」「神よ…！？うそでしょ？！」「ああ。ヨナ、何が問題なんだい？」「わたしは彼らを愛しているのだ。」「そして、彼らは救われたのだ。」聞いてください。もし私がニネベ人で、半人半魚の神を崇拝していて、そして、魚が吐き出した男が、裁きが来ると言ったなら、私は注目します。それが理由です。滑稽ですけど、本当です。私の言いたい事は何か？要点は、神が、真の生ける神であり、そして神が、他の神々があつてはならない、それらは神などではないと言う時、神がそう言う理由は、私たちをととても愛しておられるからです。いざという時には、神だけが、私たちを助けてくださるのです。それらの神々にはできません。それらは木や石で作られた偶像です。彼は真の生ける神ですこれらは神ではありませんしかし、人間はそれらを崇拝し、自らを危険にさらしています。お金のこととなると、そうではありませんか？ 使徒パウロが、こう言って 10 節を 終わらせているのは、面白いと思いませんか。このような人たちは、多くの苦痛と悲しみで自らを刺し貫くと。彼らは自らを危険にさらしています。彼らが気づき、「私はこれを追い求めてきたが、その結末はどうだ」と悟る時…ある人が、こんな風に言うのを聞きました。「私たちは成功という はしごを登ったが、気づいたら、そのはしごは 間違っただけにかかっていた。」私たちは、頂上に到達します。頂上は寂しいと言われていいますそれはイタチごっこです。こう言った人がいますが、あなたがイタチごっこに勝ったとしても、あなたはまだイタチのまま！皆さんがそれを想像しているところで 終わりにしようと思います。(笑) 素敵な午後を過ごしてください。お立ちください。祈りましょう。しもべの心、満ち足りた心、そして分断されていない心。完全に神に捧げられた心、分割されていない心。お父様、ありがとうございます。主よ、ユーモアと笑いに、またも感謝します。それは本当に癒しになり、とても健康に良いです。神よ、あなたには ユーモアのセンスがあることに感謝します。そして、私たちがこのような 深刻な話題を扱っているときでさえも。これは深刻なことです。私たちがこのようなことをすると、常に多くの悲しみが付きまといまいます。あなたは主であり、私たちの神であり、他にはいません。主よ、あなたのような方が誰かいるでしょうかあなたの御言葉をありがとうございます。イエスの名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7